

追手門学院大学社会学部芸術文化事業

映画上映会 & トークセッション

Umi No Oya — ウミノヲヤ

試写会

会場 茨木市立男女共生センターローズWAM地下2階ワムホール
参加費 無料



2024年12月21日(土) 13時—16時
開場 12時30分 上映 13時 トークセッション 14時20分

エベン・シャルドロネ & マヤ・ミンダー 『Umi No Oya — ウミノヲヤ』 (2024年)

主催 追手門学院大学社会学部
共催 茨木市、公益財団法人茨木市文化振興財団
後援 在日スイス大使館
協力 追手門学院大学社会学部社会文化デザインコース
内田千恵 (HUB-IBARAKI ART PROJECT ディレクター)

企画・コーディネート 松谷容作
テクニカル・アドバイザー 林勇気・澤田華
通訳 西本サラ
宣伝美術 見増勇介、鈴木茉弓 (ym design)



次なる
茨木へ。



公益財団法人
茨木市文化振興財団
IBABUN
Ibaraki City Cultural Foundation



160th
日本・スイス国交樹立記念
Anniversary of Diplomatic Relations
between Japan and Switzerland

Umi No Oya—ウミノヲヤ 試写会について

気候変動のリアリティが日増しに強まるなかで、生物と環境のあり方の根本的な見直しが迫られています。そうしたなかで、私たちの生命を支える食という営みはどのような変化を見せるのか。今年度の追手門学院大学社会学部芸術文化事業では、スイス人アーティストで料理人、また Vitality.Swiss のアンバサダーでもあるマヤ・ミンダーと、作家でキュレーターのエベン・シャルドロネによる『Umi No Oya—ウミノヲヤ』(2024年)の試写とトークセッションを通じて、「生物と環境のあり方の見直し」や「食の変容」などについて考えていきます。

この試写は在日スイス大使館による Vitality.Swiss プログラムの一部になっております。

作品について エベン・シャルドロネ & マヤ・ミンダー 『Umi No Oya—ウミノヲヤ』(2024年)

マヤ・ミンダーとエベン・シャルドロネは、藻類の生態が変化するなかで見せるその潜在力をこの作品において探究している。このドキュメンタリー・エッセイで2人はイギリス人藻類学者キャスリーン・メアリー・ドゥルー・ペーカーの遺産を辿っていく。彼女は1949年に紅藻類のライフサイクルにかかわる重要な科学的発見をし、戦後の日本における海苔養殖の隆盛に貢献したのだった。作品ではウミノヲヤ(Umi No Oya)——海の母——としてドゥルーに敬意を表しつつ、気候変動という新たな試練と向き合うための知恵を戦後の九州で彼女が注ぎ込んだレジリエンスのなかに求めようとしている。



トークセッション



マヤ・ミンダー
Maya Minder

スイスのチューリッヒに生活と活動の拠点をおき、イート・アートの分野で活躍するアーティストおよび料理人。韓国人の母とイギリスにルーツがあるスイス人の父を持ち、自らを地球人と称している。「料理は私たちを変容する」というフレームワークを彼女は作品を通じて組紐のように織り上げてきた。そして、ありのままの自然が人間の手によって調理され文化へと変容する、といったメタファーの背後にあるものを料理を介してあらわにするのだ。さらには植物や動物そして人間の共生と共存という進化をめぐるアイデアと料理を結びつけようとしている。人間のコモディティと自然のアニミズムとの絡み合いを彼女は創り出すのである。加えて、パイオハッカーやメーカー、サードスペースのムーブメントにならって、彼女は食と料理を通して集団的なストーリーテリングを可能にするため、草の根的なアイデアやセーフ・ゾーン、市民科学を自らのフィールドに取り入れてもいる。現在、マヤ・ミンダーは在日スイス大使館のプログラム「Vitality.Swiss——2025年大阪・関西万博に向けて——」のアンバサダーを務めている。マヤ・ミンダーのWebサイト (<https://mayaminder.ch>)

フランス人アーティストであり、作家、ジャーナリスト、キュレーター。現在、バイリンガルのウェブマガジン『Makery.info』の編集長であり、また不定期の新聞『The Laboratory Planet』の編集責任者、そしてクリエイティブ・ヨーロッパの協力プログラムである「More-Than-Planet」および「Rewilding Cultures」のコーディネーターを務める。社会組織に言説や視座の転換を織り込んでいくような社会的状況の創出とアート・リサーチや科学的知識を接続していく実践や戦術、思索に彼は関心を寄せている。2016年より、Xavier Bailly(ロスコフ海洋研究所)と共に、アートと海洋科学のプラットフォームである『Roscosmoe.org』を主宰している。最近の著作として『Mojave épiphanie: Une histoire secrète du programme spatial américain』(2016年)、共編著として『Space Without Rockets』(2022年)などがある。『Makery.info』のWebサイト(<https://www.makery.info/en>)『The Laboratory Planet』のWebサイト(<https://laboratoryplanet.org>)『Roscosmoe.org』のWebサイト(<https://roscosmoe.org>)



エベン・シャルドロネ
Ewen Chardonnet

松谷容作(司会)
Yosaku Matsutani

追手門学院大学社会学部教授。専門は美学・芸術学、映像メディア論、視覚文化研究。感性論的転回以降のアート実践、アートと科学技術また環境との関係、様々な生物や事物に共通する感性のあり方などを研究している。『メディア論の冒険者たち』(2021年)、『スクリーン・スタディーズ』(2019年)などに寄稿している。

参加申込方法

申し込み期間

12月20日(金)まで。先着順に受付をします(定員に達し次第締め切り)。キャンセルや社会状況等に応じて追加当選ないし再募集することがあります。

申し込み方法

右のQRコードまたは下記のURLから専用申し込みフォームに入り、お申し込みください。
<https://logoform.jp/form/2Qoq/748016>



問い合わせ先

茨木市文化振興課 072-620-1810 (9:00~17:00)

茨木市立男女共生センター
ローズWAM
地下2階ワムホール



〒567-0882 大阪府茨木市元町4番7号 Tel 072-620-9920
JR茨木駅から東へ徒歩12分、阪急茨木市駅から西へ徒歩5分